

「8年間の～いいね～ショット」

森林レンジャーあきる野の活動が8年半経過し、このレンジャー新聞はなんと100号目を向かえました！

そこで、私がこれまで特に印象に残った風景や出来事などをセレクトして、紹介したいと思います。今回も、森林レンジャーあきる野新聞をお読み頂き、ありがとうございます！



「季節に合わせた2ショット」(左)2010年の秋、初めて見たあきる野の秋風景。私にとって、この秋川の美しい紅葉が秋川渓谷の代表的な景色です。(右)2016年の秋、紅葉の時季の真最中に厳しい寒波が関東に広がり、雪が降りました。二つの季節が重なったかのような奇跡的な風景を味わえました。



「鷹柱」 渡りの際に、サシバなどの猛禽類が上昇気流に乗ってグルグルと旋回しながら集まります。西多摩では、特に青梅経由で渡る猛禽類が多いようですが、あきる野でも、大きな群が渡ることがあります。その瞬間は、幻想的な風景になります。

「あきる野雲海」 本州中部の山地などでしか見られない現象かと思ったら、大間違いです！秋の時季に発生率が高くなります。



「隠し滝」 市内で、これまでに数多くの滝を確認しています。その中で、落差10～20mの美しいものが複数、奥山の沢に隠れています。



生き物に溢れる

あきる野



「ドングリ拾い」 ドングリは、特に哺乳類にとって非常に貴重な栄養源である「秋の恵み」です。他にも、カケスなどの野鳥がよくドングリを貯食します。この写真では、観察しにくい美しいヤマドリの雄がドングリを採食する場面を収めることができました。

「西多摩の森の王者が誕生」 初めて見たクマタカの幼鳥は、生まれて数ヶ月なのに、既にたくましい目つきや体格、大きな爪と嘴を持っていて印象的でした。



「お昼休み」 餌付け問題などの影響で、人間との関係がうまく行かなくなった地域が多いニホンザル。いたずらっ子というイメージですが、山の中で葉っぱの採食や子育てなどのおとなしい場面を見たら、人間に近い生き物であるこの動物の魅力に気がきました。



「必死に生きる瞬間」 登山の途中で、偶然目撃した悲劇的なエピソードの一つ、シマヘビに捕食されるニホンマムシです。この激しい戦いの結末は、毒のあるマムシではなく、攻撃性の強いシマヘビが勝ちました。

「裏山に咲く宝花」 森の調査で山奥に入ったある日、見たことのない花を数株見つけました。どうやら、ベニシュスランという非分布の絶滅危惧種(西多摩の場合)に指定されている植物のようです。あきる野では、これまでに記録がなかったため、これは初確認となりました。長年に渡り、人が立ち入らない森を調べる価値を実感した発見の一つでした。

